

Kleines
Deutsch-Japanisches
Wörterbuch

mit Worterklärungen in beiden Sprachen

von

Prof. Masao Katayama

片山正雄著

雙
獨
和
小
辭
典

東京南江堂發行

序

雙解獨和大辭典が完成するや余は直ちにその改訂に従事し、同時に豫定の計畫であつた本小辭典の編纂を開始したが、兩々相扶けて事業は流るるが如くに進捗し、今回先づ本書を公にすることを得たのは余の欣快とするところである。余は歐和辭典が雙解を本格となすこと及學習者が所謂豆字引の使用に始終することの不得策なることを高唱する點に於ては相變はらずであるが、敢て本小辭典を編纂する所以は、第一に初學者に便益を與へ、第二に携帶用辭典を提供し、第三に他日大辭典の改訂版を、次いでは増補版を公にするに先ちて余の獨和辭典に關する理想の片影を示し、第四に而して最も重要なることは從來の小型辭典がそれぞれ成長所を有するに係はらず、多くは疎畧に失して却つて間々初學者の用をすら便する能はざることある事實に鑑み、一面には語學教育上の缺陷を補ひ、他の一面には一般獨逸語讀者の永久に使用し得べき小型辭典を作らむとすることにある。これらの諸目的を甚しく制限せられたる紙數と書型との内部に於て達成せむとすることが余の最も苦心した點である。其ために余は以下述ぶるが如き方法を用ひ、若しくは結果に到達し、又は到達せむと努めた。

本書は大辭典の單なる拔萃では無くて、同時にその増補であり、修正であり、推敲である。拔萃の際には出來得る限り多くの見出しの語を残し、從來の小型辭典に於けるが如き均一的、機械的簡畧化を行はずして、語學上實際生活上重要なる文字は大辭典に準じて紙幅の許す限り豊富詳細ならしめむことを努め、豆字引の通弊なる非實用的な疎畧に陥ることを避け、誤解を生ずる虞なくして常識を以つて簡単に譯語を構成し得べく且つ比較的重要なならざる複合語の若干を割愛し、その爲めに生じたる餘地を充す爲めに、其性質上獨逸語そのものを主としたる大辭典が割愛した外來語、外國語、俗語、新造語及前綴後綴の解釋を夥しく増加して大辭典の缺を補つた。此點に於て本書は少くとも一小外來語(及俗語)辭典の用をなすべきものと信ずる。推敲の場合には語の雙解的説明及譯語に於て平易簡潔にして冗を省き要を悉さむことを主眼とし、多くの點に於て大辭典の内容及外形を洗練したつもりである。雙解の一要素なる獨逸語の同意

語反意語の如きも、或は短縮し或は新に書き改めたるものが少くない。更に卷末に發音表及文法表を添へ、本書の實用的發音法を更に精確ならしめ、重要な變化及文法上の使用法を明かにし、全體をして有機的ならしめる端緒を開きたることは、獨逸語研究者を利するところ少からずと信ずる。

最後に余は編輯及校正に於て九大助教授佐藤通次氏、組版、印刷及出版等に於て出版者印刷者の多大の好意と援助とを得たることを特記して深厚なる謝意を表す。又大辭典に關して江湖各位より賜はりたる種々の注意は余を啓發する所少からず、茲に之に對する感謝の誠意と、本書に對しても同様の好意を賜はらむことの希望とを表明する。

猶ほ本書使用法につきては凡例に詳説する所を參考せられむことを望む。

昭和四年三月

福岡に於て

片 山 正 雄

凡 例

1) 本書の語彙は單純語複合語の別なく、出来るだけ徹底的に a b c 順に並列してあるが、轉用語(名詞化せる形容詞、動詞、形容詞的分詞等)は原則として根詞の條下又は其次にあるも、ge=を有する常用の形容詞的分詞は G の部にあるものが多い。

2) 本文はすべて獨逸文字、原語の解義語及諸略語はすべて拉典文字で書いてある。拉典文字をしつくり獨逸文字に合はせる爲めに I (=i), B (=b) を用ひた。

3) 獨逸語では大小頭字の用法と r 及 s, ff 及 ff の別とが喧しいので、それ等の區別を明にする爲めに、a) 複合語に於ては名詞と他の品詞とは行を別にし、b) 反覆記號 (~) の前には特別に大小頭字、後には r 又は ff を記入した。例へば güt 條下の der ~e は der gute であつて der G~e は der Gute であり、Bier'tel は名詞であつて b~ は形容詞であり、Krauß 條下の ~(i)e は Krause であり、Bild'nis 條下の ~(ff)e は Bild'nisse である。

4) 綴の切り方は Duden の正書法に従つたが、複合語を除く初出の見出しの語に於ては、綴字上の誤解を免れる爲めに α, β, は t, t, と切り離すことをしなかつた。例へば drü'den, ff'ken の如し。

5) 發音は大體に於て Bieter に依つた。複合語に於ても發音は多く明示した。詳細は附録の發音表を参照せられたい。

- は其前後を切離して發音することを示す。i, e の上の .. は分離符。

6) 語源は [] にて示し、同じく [] にて示したる發音の後に於て何國語であるかを示した。

7) 見出しの語の前にある A, B, C 等は同音異義あることを示し、見出しの語の後にある (I) (II) 等は、品詞、性、自動、他動、再歸等の別を、① ② ③, a) b) c), a) b) c) 等は意義のみならず用法の別をも示す。

8) 本文中の () は、a) 有つても無くてもよき字母 [例へば Philolög'(e)], 又は語 [例へば im Fall (daß)] を示し、b) 二句又は二文の省約を示し、且つそのことは譯語の中の () に依つて明示してある。例へば auf j. (etw.) achten は auf j. achten 及び auf etw. achten の省約であつて「或人(物)に注意する」の譯語に依つてその事が分る。(od. ...) は其前の語と (od. ...) 中の語いづれにても可なる意である。例へば am (od. bei) Hofe, 宮中に於て。

9) 名詞には性 (m., f., n.), 二格 (女性を除く) 及複數の形を擧ぐ(複合語を除く)。複數なきか又は常用せざるものは、或は記入せず、或は () を用ゐて之を示し、意味に依つて之あるもの、なきもの又は形を異にするものは一々之を明示した。例 Mann, Sächerlichkeit, Lob, Wort.

性, 二格, 複數の形: m., ~s, pl. ~ (又は ~(n), m., ~ns, pl. ~n) は第一變化; m., ~n (又は ~en), pl. ~n (又は ~en) は第二變化; m., ~(e)s, pl. ~e (又は ~en 又は ~er) は第三變化; f., pl. ~e (Umlaut を取る) (又は ~(e)n), は第四變化; n., ~(e)s, pl. ~er (又は ~e, 又は ~(e)n) は第五變化に屬する。

形容詞の語尾變化をなさざるもの及特殊の用法あるものは文法表に列擧し

た。支配及比較の Umlaut を取り又は不規則なるものは各語に附記した。名詞的形容詞は必ず (r) に終る、(r) は強(及混合)變化に於ける男性語尾である(文法表 3 を参照せよ)。

動詞の變化は文法表に詳説したばかりでなく、變化形の不規則なものは本文に列擧して不定法の檢索に便にした。例へば fällt, fällt, fiel, gefallen に f. fallen とあるのは不定法が fallen であつて其條下を見よ、而して變化は卷末動詞表を参照せよと云ふ意味である。變化形の規則的、不規則的なるに従つて意味用法を異にするものは各語の條下に明示した。支配は他動 (t.), 自動 (i.) 再歸 (ri) 等の略語の外に i. (人の一格、四格)、is. (人の二格)、iu. (人の三格)、etw. (物の四、稀に三格)、eines Dinges (物の二格)、einem Dinge (物の三格) 等の語、略語、又は難形にて示した。前置詞を要するもの亦然り。例: abgucken, beschenken.

數詞の形容詞的又は名詞的なるに従つて變化を異にするものは本文の外文法表にも明示した。

前置詞の支配は略語(例: mit gen., mit dat., mit acc. &c.) を用ゐて悉く之を明示せるのみならず、多くは用例を伴ふ。

副詞は本來のもの及形容詞の轉用にても重要なものは別に項目を設けて其譯語及用例を擧げた。

冠詞の條下に格の意義、動詞の終に時稱及話法の用法を掲げたのは著者の老婆心からである。

略語解

1) 外國語略語解

- A:** a. = Adjektiv, 形容詞。
 acc. = Akkusativ, 第四格。
 adv. = Adverb, 副詞。
 ägypt. = ägyptisch, 埃及の、埃及語(の)。 [例(の)]
 allg. = allgemein, 一般の(に)、通
 ar. = arabisch, アラビアの、アラビア語(の)。
- B:** bef. = besonders, 殊に。
 betr. = betreffend, に関する(して)。
 bisw. = bisweilen, 往々。
- C:** c. = Konjunktion, 接續詞。
 chin. = chinesisch, 支那の、支那語(の)。
 coll. = Kollektivum, 集合名詞。
 comp. = Komparativ, 比較級(形容詞副詞の)。
- D:** dat. = Dativ, 第三格。
 d.h. = das heißt, 即ち。
 dim. = Diminutivum, 指小詞、縮小詞。 [(の)]
 dtsh. = deutsch, 獨逸の、獨逸語
- E:** eig. = eigentlich, 元來、本來。
 engl. = englisch, 英國の、英語(の)。
 etw., etw. = etwas, 或物(は、が、で、に、を)。
- F:** f. = Femininum, 女性。
 fr. = französisch, 佛國の、佛語(の)。
- G:** geb. = geboren, 生れたる、生る。
 gen. = Genitiv, 第二格。
 gest. = gestorben, 死せる、死す。
 gew. = gewöhnlich, 通例。
 Ggl. = Gegensatz, 反對、反意語。
 grch. = griechisch, 希臘の、希臘語(の)。
- H:** (h.) = mit „haben“ konjugiert, 助動詞 haben を取る。
 hebr. = hebräisch, ヘブライ語(の)。
 holl. = holländisch, オランダの、オランダ語(の)。
- I:** i. = Intransitivum, 自動詞。
 imp. = impersonal, unpersönlich, 非人稱の(動詞)。
 indef. = Indefinitum, unbestimmt, 不定の(冠詞、代名詞)。
 inf. = Infinitiv, 不定法(動詞の)。
 ins. = inseparabel, untrennbar, 非分離の(動詞)。
 int. = Interjektion, 間投詞, 感嘆詞。
 interr. = Interrogativum, Fragewort,
- 疑問の(代名詞、副詞等)。
 it. = italienisch, 伊太利の、伊太利語(の)。
- J:** j., j. = jemand, 或人(が、は、で、を)(第一及四格)。
 Jahrh. = Jahrhundert, 世紀。
 jm., jm. = jemand(em), 或人に(第三格)。
 js., js. = jemandes, 或人の(二格)。
 jüd. = jüdisch, 猶太の、猶太語(の)。
- K:** klt. = keltisch, ケルト語(の)。
- L:** lt. = lateinisch, 拉典語(の)。
- M:** m. = Maskulinum, 男性。
 adj. = adjarisch, マヂヤール(ウンガールン)語(の)。
- N:** n. = Neutrum, 中性。
 ndl. = niederländisch, 和蘭の、和蘭語(の)。
 nom. = Nominativ, 第一格。
 num. = Numerale, Zahlwort, 數詞。
- O:** od., ob. = oder, 又は。
 öst. = österreichisch, 奧太利の。
- P:** p. = Partizipium, 分詞。
 p.a. = adjektivisches Partizipium, 形容詞的分詞。
 pers., Person, 人稱。
 pers. = persisch, 波斯語(の)。
 pl. = Pluralis, 複數。
 poln. = polnisch, 波蘭の、波蘭(語)(の)。
 port. = portugiesisch, 葡萄牙の、葡萄牙語(の)。
 p.p. = Partizipium Perfekti, 過去分詞。
 p. pr. = Partizipium Präsens, 現在分詞。
 pres. = Präsens, 現在。
 pret. = Präteritum, 過去。
 prn. = Pronomen, 代名詞。
 prp. = Präposition, 前置詞。
- R:** rel. = Relativum, 關係代名詞。
 rfl. = Reflexivum, 再歸代名詞, reflexiv, 再歸的の。
 röm. = römisch, 羅馬の。
 russ. = russisch, 露西亞の、露西亞語(の)。
- S:** s. = siehe, を見よ。
 (s.) = mit „sein“ konjugiert, 助動詞 sein を取る。
 s. = Substantiv, 名詞。

schw. = schwedisch, 瑞典の、瑞典語(の)。
 sep. = separabel, trennbar, 分離的の(動詞)。
 sing. = Singular, 單數。
 skand. = skandinavisch, スカンヂナ半アの。
 skt. = Sanskrit, sanskritisch, サンスクリット(の)。
 span. = spanisch, 西班牙の、西班牙語(の)。
 sup. = Superlativ, 最高級(形容詞、副詞)の。

T: t. = Transitivum, 他動詞。
 tschech. = tschechisch, チェック語(の)。
 türk. = türkisch, 土耳其の、土耳其語(の)。
 U: u., u. = und, 及。
 usw, usw. = und so weiter, 等。
 V: v. = von, vom, の、より、から、に就いて。
 vgl. = vergleiche, を参照せよ。
 Z: z.B. = zum Beispiel, 例へば。
 Zff. = Zusammenfassung(en), 複合語。

1) 邦語略語解

B: [物] 物理學
 [文法] 文法、言語學
 C: [地] 地理學、地名
 [地質] 地質學
 D: [電] 電氣工學、電信、電話、無線電話
 [動] 動物學、生物學
 E: [園藝] 園藝術
 G: [學生] 大學生の用語、書生的(burschikos)の言ひ方
 [議會] 議會用語
 [漁] 漁業
 [諺] 俚諺、格言
 [劇] 演劇、戲曲
 H: [反] 反語的、諷刺的の用語
 [比] 比喩的の用語、轉義
 [卑] 卑語、猥褻語
 [兵] 兵語、戰術、軍學
 [法] 法律學
 [方] 方言、獨逸國文章語、標準語以外の語
 I: [醫] 醫學、解剖學、生理學等
 [印] 印刷術
 J: [獸醫] 獸醫學
 K: [加] 加特力教(舊教)の用語
 [化] 化學
 [海] 海事、海軍、航海學
 [繪] 繪畫、美術
 [機] 機械工學
 [建] 建築術

[劍法] 劍法、擊劍術
 [工] 工學、工業、工藝學
 [鑛] 鑛物學
 [鑛山] 鑛山學、採鑛學
 N: [農] 農業
 O: [音] 音樂
 [織物] 織物業
 R: [林] 林學、林業
 [獵] 狩獵用語
 [料理] 料理法
 [論] 論理學
 S: [聖] 聖書の人名、地名、語句
 [占星] 占星術
 [製本] 製本業
 [製革] 製革業
 [新] 新教の用語
 [神話] 神話(學)
 [詩語] 詩語、詩句
 [修辭] 修辭學
 [宗] 宗教、主として基督教
 [數] 數學
 [商] 商業
 [植] 植物學
 T: [體操] 體操術
 [哲] 哲學、論理學、心理學
 [鐵道] 鐵道業
 [天] 天文學、星學
 Y: [冶金] 冶金學
 [郵] 郵便
 Z: [俗] 俗語

2) 符號解

~ 反覆記號
 || 複合語の接續記號
 † 古語、稀語、廢語

&c. = et cetera, 等
 … 云々

常用說明語解

als = として(用ふれば)。
 für = の代りに、の略語。
 meist = 多くは。

mit = と共に用ふれば。
 ohne, 無き(くして)。
 selten, felt(e)ner = 稀に。

昭和四年四月十日第一版發行
 昭和四年九月五日第二版發行
 昭和五年三月十日第三版發行
 昭和五年六月十五日第四版發行
 昭和五年十一月十日第五版發行
 昭和六年四月五日第六版發行
 昭和七年一月五日第一次改訂七版印刷
 昭和七年一月十日第一次改訂七版發行

[定價 總 革 製 4.50]
 [定價 總 布 製 4.00]



著 者 片 山 正 雄

發 行 者 南 江 堂 小 立 鉦 四 郎
 東 京 市 本 郷 區 湯 島 切 通 坂 町 八 番 地

原 版 製 版 者 合 資 正 文 會 加 藤 晴 吉
 及 印 刷 者 會 社
 東 京 市 本 郷 區 湯 島 切 通 坂 町 五 十 一 番 地

H B 製 版 者 凸 版 印 刷 會 社 井 上 源 之 丞
 印 刷 者 株 式 會 社
 東 京 市 下 谷 區 二 長 町 一 番 地

發 行 所

南 江 堂 書 店

東 京 市 本 郷 區 春 木 町 三 丁 目

南 江 堂 京 都 支 店

京 都 市 中 京 區 寺 町 通 御 池 南

岡 山 (双 解 獨 和 小 辭 典) 製 本

高等學校所在地取次書肆

仙臺	京都	金澤	熊本	岡山	鹿兒島	名古屋	新潟	松本	山口	松江	水戸
英華堂・丸善	南江堂支店	宇都宮・いろや	長崎次郎・金龍堂	渡邊泰山堂	金海堂・吉田	大竹・丸善	北光社・考古堂	鶴林堂書店	文星堂・日新堂	向井書店	平野書店・川又書店
山形	佐賀	弘前	松江	大阪	浦和	福岡	静岡	高知	廣島	姫路	富山
遠藤書店	大坪書店	今泉本店	今井・有田・文會堂	丸善・柳原書店	須原屋書店	丸善・積文館	成功堂書店	日新館書店	廣島積善館	井上書林	中田・瀨川

獨和辭典界最高の權威

片山正雄著

雙解獨和大辭典

特許 HB 式製版印刷 紙數二四〇〇頁
定價總革裝幀九圓 總布裝幀八圓

本書の六大特色

1. 全部雙解原辭書を兼備す
2. 各語の發音綴字法文則明示
3. 語彙豊富にして新語網羅
4. 譯語正確原意自ら浮動す
5. 傳統的誤謬を一掃す
6. 徹頭徹尾著者一人の勞作

序文の一節

……著者は多年語學教授の實驗に依つて、教師は意のままに完全な辭書を使用するにも拘はらず、生徒は終始一貫疎略な豆字引を使用して、完全な辭書を引きさへすれば解ることな、教師から秘傳のやうに口移しに教へられてゐる習慣をやめて、教師と生徒とが同等の辭書を使用して、教師は生徒に辭書に依つて其教授することの出所を示し、且つ生徒をして自力に依つて外國書を讀破する力を養成せしめるには、雙解辭書の絶対に必要であることを痛感してゐた……

片山正雄監修

袖珍 獨和辭典

特殊高級紙採用

總羊革綴美裝

紙數六百五十頁

定價貳圓五十錢

本書の三大特色

(一)語彙の最小限が權威ある原辭典に依つて保證せられ、豫定頁數の許す限り有用にして精選された派生語、複合語、外來語及新造語新意義等を以つて擴充せられたる爲め、頁數との比に於て如何なる本格的辭典をも凌駕する語彙を有すること

(二)内容及編輯の方法 簡潔にして而も親切、殊に文法的關係は原語と譯語とを通じて、明快周到に指示せられ、如何なる初學者も直ちに取つて獨文の翻譯に適用し得べきこと

(三)卷末に附した「辭書を引く爲の獨逸文法」及變化表發音表等は、初學者、獨學者に取つて重寶至極の案内者で、本辭典の利用價值を幾百パーセントにも高める許りでなく、本書の他の特長と共に亦實に本書を初年級教科書として推獎する價值を與へるものなること